

諏訪神社 横浜市青葉区大場町 921

御祭神 言代主神（ことしろぬしのかみ）、建御名方命（たけみなかたのみこと）
創建は棟札によると宝暦六年十月（1756年）当時の領主箕内膳及び惣氏子により大場村鎮守産土諏訪大明神として建立された とあり、新編武蔵風土記稿にも記されている。
当神社は丘陵地にあったが平成の時代になり大場町一帯の都市化が進み、神社を含む地域を大場第三土地区画整理組合と称し、土地区画整理事業を施行、これを機に惣氏子相計り境内地の整備、社殿社務所の建築、諸設備の拡充をなせるもの也（境内石碑より）。
明治維新以前は真言宗王禅寺の薬王寺の持社で、「諏訪大明神」と称していたが、明治元年の神仏分離により仏教色を排し、「諏訪神社」と改称。大場町産土神として篤く崇敬される。
本殿の左サイドに石祠があり、文字は読めないが年代を感じる狛犬が鎮座されている。



道路からすぐに鳥居があり
近くの人がお参りをしていた



本殿の鈴緒は触られないように



手水舎



小さな狛犬がいた